

平成30年度アクティブ・ラーニング推進校・カリキュラム・マネジメント推進校実践報告会

「エンカレッジスクール独自のアクティブ・ラーニングへの取り組み

－ “ 学 び 直 し ” と “ 基 礎 学 力 の 定 着 ” 実 現 の た め に －

東京都立蒲田高等学校 全日制（推進校2年目）

1 アクティブ・ラーニング（以下、「A L」）の視点による授業改善を推進する目標について

【推進校としての目標（平成29年度設定）】

・基礎的な学力や技能の習得の促進にA Lの手法を取り入れ、学力を定着させる。

・学力の高い生徒について、知識を活用する能力を身に付けさせる。

・学力に課題を抱えている生徒について、対話的な学習に能力を発揮できる生徒を伸ばす。

【1年目（平成29年度）の成果と課題】

成果

・頻度や程度の差はあるが、A Lに取り組んだ教員は、全体の約7割に達した。
⇒心理的障壁をある程度改善できた。

・A Lを導入した授業での生徒の授業に対する満足度、学習への理解度が高い数値となった。

課題

・本校の生徒は多様な課題を抱える生徒が少なくなく、そのような本校の特性を踏まえた上で、A Lの質を高める。

・A Lの取り組みをより学校全体に拡大していく。

【2年目（平成30年度）目標】

A Lにより「育てたい生徒像」の設定

・基礎、基本の学力を定着できる生徒。

・生徒の学び意欲を育成し、理解する喜びを実感できる生徒。

↓

5教科（国、数、英、社、理）での「段階到達目標」を設定し、生徒の学力を到達段階で把握し、次の段階の到達のために必要な取り組みに対し、A Lがどのような役割を果たすことができるのかを実践授業で研究していく。

2 自校のA Lの視点による授業について －段階到達目標を用いた地歴公民科「政治・経済」の授業を例に－

【蒲田高校地歴公民科 段階到達目標】

	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
欲・関心・態度	学習事項について、学習した内容を理解しようとする姿勢を持つ。	学習事項について、学習した内容に関心を持ち、授業での課題を解決しようとする。	学習事項に対する関心を深め、地理的背景（地理）、歴史的背景（歴史）や社会との結びつき（公民）の中で課題を解決しようとする。	学習事項を発展させて自ら現代社会での問題に関心を持ち、その解決の在り方を考察する。
思考・表現・判断	二者択一のような簡単な質問に対して、自分の意見を持つ。	簡単な質問事項に対して自らの意見を持ち、さらにその理由を説明することができる。	単元ごとの課題（主題）に対する自らの意見を多面的に判断して持ち、自らの意見を理由とともに、わかりやすく説明することができる。	課題（主題）に対する自らの意見、およびその理由を発表し、資料を活用したり、他者の意見と比較したりしながら自らの考えをまとめていくことができる。
資料活用	提示された一資料がどのようなものであるか理解できる。	提示された一資料の特徴を捉え、どのようなことが読み取れるかを判断することができる。	提示された一資料を多面的に読み取り、読み取ったことから自らの意見や考えをまとめていくことができる。	複数の資料（図表や史料、新聞記事など）を活用し、相互を比較することで読み取れることを活用し、自らの意見や考えをまとめていくことができる。
知識・理解	授業における基本的学習事項（教科書の太文字を中心に）を理解することができる。 【確認テストで3割以上の正答率】	授業における基本的学習事項を理解し、確認テストなどにおける知識・理解の確認において正答を導くことができる。 【確認テストで5割以上の正答率】	授業における学習事項全般を理解し、確認テストなどにおける知識・理解の確認において正答を導くことができる。 【確認テストで7割以上の正答率】	授業における学習事項全般を理解し、発展的な問い方においても知識・理解を用いて正答を導くことができる。 【確認テストで8割以上の正答率】

【実践授業前の現状】

<関心・意欲・態度>

第2段階には到達しているが、“社会との結びつきの中で課題を解決しようとする”までは至っていない生徒が多い。

<思考・判断・表現>

第2段階の生徒が多く、課題（主題）に対する自分の考えを多面的な判断に基づいた根拠を示すことができていない。

<資料活用

第3段階まで到達している生徒と、資料の活用を苦手としている生徒で差が生じている。

<知識・理解>

生徒間でのばらつきがあり、第1段階の生徒から第3段階に到達している生徒がいる。

【単元】

財政「租税の集め方と使い方を考える」

【授業概要】

実際の地方自治体を設定し、その中で①限られた税金の使い方、②具体的な状況設定に基づく税の集め方をA Lで学習した。

【実践授業の工夫点】

・現実の中で税の使い方と集め方を協同で学習することで、生徒の学習意欲を高めた。また、授業の最後には実際の国政政党の政策を紹介し、社会との結びつきを意識した。

・グループワークを活用することで、資料活用が得意な生徒が苦手な生徒をサポートしながら、一資料であっても多様な見方や考え方があることに気づかせるようにした。一方で、まずは個人で考えさせることで、個々の技能向上を意識させることとした。

授業の様子（グループワーク）

3 昨年度と比較した生徒、および授業の変容について

①段階到達目標を設定したことで、A Lを用いて達成すべき目標が明確になり、効果的なA Lの実施ができるようになった。

例）社会との結びつきを意識させて関心を高めるために、社会の諸問題を考えさせる短時間でのA Lを一授業時間内で複数回実施。

・「授業に参加できるし、今まで関心がなかったことにも関心が持てるようになった（生徒の声）」

・アンケートにより、授業に対する関心が改善（肯定的回答約1割増）。

②多様な授業形態の展開が行われるようになった。

例）生徒が授業者となる授業実践、自ら設定したテーマの発表...

4 次年度に向けた課題

①今年度の成果を踏まえた、学校全体での実践。

全教科で目標を設定し、学校で目指すべき生徒像を実現する。

②A L実践を通じた生徒の変容の分析。

最終年度であるため、今後のための生徒の変容を数値化する。